

京町家に学ぶ住育指導ガイドにもとづく授業

Ⅰ「夏をすずしくさわやかに」 8時間扱い 6月中旬～7月

Ⅱ「冬を明るくあたたかく」 6時間扱い 12月～1月

京都市立朱雀第八小学校 / 京都市小学校家庭科教育研究会

実施学年：6年
生徒数：3学級 120人実施教科：家庭科
実施時間数：「夏をすずしくさわやかに」8時間
「冬を明るくあたたかく」6時間

Ⅰ「夏をすずしくさわやかに」

指導時期：6月中旬～7月

校区にある京町家の見学を通して、夏の住まい方について学習をすすめる予定をしていたが、今回はコロナ感染予防のため、見学を中止し、あらかじめ取材した動画をもとにした資料をもとに学習を進めた。(疑問に思ったことやもっと知りたいことを町家に住まいされる再生研の方に答えてもらうことにした)。これまでに活用してきた京町家の模型や町家カードなどを使いながら、学習をすることにした。京都の夏は蒸し暑く、昔から暮らしの知恵を住まいのつくりや機能を生かしながら工夫して生活してきた。これを教材化することによって、現代の住まい方の工夫を主体的に考えることができるのではないかと考えた。この題材で夏を快適に過ごすための学習内容は、「通風」と「遮光」である。京の町家の特徴でもあるウナギの寝床ともいわれる玄関からはしり土間を通して奥座敷につながる風の通り道や、坪庭効果といわれる風の対流効果、すだれや庇による遮光のしくみ、葺戸や敷物の網代による視覚や触覚による涼を得る快適さ、座敷から見える前栽の緑の美しさなど、多くの要素に暮らす人の知恵や工夫や思いを見学を通して実感することができた。また感覚だけでなく、住まいの構造や機能や役割などを科学的に理解することで、現代の生活にどう生かすことができるかという手がかりにもなった。校区に京町家は多く残っているが、実際の子どもたちで京町家に住んでいる子どもは少ない。ひとつひとつの京町家で見つけた素材については、教材として京町家カードを作成し、いつもそれを見れば思い出せるようにした。秋から冬にかけての「快適な暮らしを工夫しよう」ではもう一度このカードをもとに夏の見学を想起して、冬の暮らしと対比させて考えることができた。見学を通して気付いた暮らしの工夫をそれぞれの自分の住んでいる家にあてはめて、「マイさわやかプラン」を書いた。そこには、部屋のドアを開けて風の通り道をつくることや、日差しの方向を考えてカーテンやすだれを効果的に使って遮光するなどの工夫を考えて、家庭実践に結び付けることができた。



学習のねらい

- ・ 季節の変化に合わせた京町家の工夫に関心をもち、快適な夏の暮らしを実践しようとする。
- ・ 京町家の住まい方を知り、気持ちよく過ごすために自分なりに工夫しようとする。
- ・ 夏を快適に過ごすための工夫を自分の家で実践できる。
- ・ 暑い夏を快適に過ごすために住まい方を理解している。

学習活動

1. 夏の生活を見つめよう 1時間
2. 快適な住まい方や着方をしよう
 - ・ 京町家から涼しい住まい方を見つけよう 2時間
 - ・ 自然を生かした住まい方を考えよう 2時間
3. 夏の生活を工夫しよう
「マイさわやかプラン」を提案しよう 1時間



準備品

京町家カード・指導用ガイド試行版・VR体験学習システム試行版
京町家の模型 協力：京町家再生研究会・京すまいセンター

実施場所

学校（教室）見学は中止のため、京町家の動画撮影・VR体験学習システムの試行

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>学校</p> <p>1 時間</p>	<p>○夏の暮らしの特徴と課題を考え、学習の見直しをもつ。</p> <p>暑い季節を快適にするためにはどのような工夫ができるのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の京都の町の様子から、涼しく住むために工夫していたことを予想する。 ・今の生活の中での工夫を見つける ・京町家の見学のめあてについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気温と1年間の電気使用量の推移のグラフから、夏の電気消費量の多くを冷房に頼っていることに気付く。 ・昔と今の平均気温のグラフを見て、地球温暖化現象が進んでいることにも気づくようにする。 ・教科書の挿絵や自分の生活経験から、住まい方に工夫があることに気付かせ、昔からの京の町家に工夫の手がかりがあることに気付かせ、見学のめあてをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の電気使用量の多さや地球温暖化現象が進んでいることに気付き、自然を生かした暮らし方の工夫が必要であることに気付く。 ・校区にある京町家に興味関心を示し、主体的に課題解決のために見学のめあてを考えることができた。 ・校区に京町家がない地域の児童も、動画や写真カードで関心を示した。
<p>京町家</p> <p>2.3 時間</p>	<p>○町家を見学して住まい方の工夫を見つけよう。</p> <p>夏をすずしく住むための工夫を見つけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや気付いたことをメモしながら、わからないことは専門家に質問する。指導ガイドに基づいて教師が答える。 ・町家ではさまざまな感覚を働かせて涼しく住む工夫を大切にしていることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町家の中がとても涼しいのはなぜか考える。京町家の構造やしくみ、素材の工夫に着目させる。 ・録画した専門家の動画や、町家カードから生活の工夫を見つける手がかりとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・京町家が自然をうまく利用して冷房にたよらずに涼しく住むことができることを体感し、その理由について関心をもって専門家の話を聞いてメモを取る。 ・日光を遮るためのひさしや、風通しをよくするための家のつくりや、触感や視覚による涼をもとめる工夫も知り、興味関心をもつことができた。
<p>学校</p> <p>4.5 時間</p>	<p>○京町家の様子を思い出しながら、町家で見つけた夏を涼しく住むために工夫をまとめる。</p> <p>町家の模型から夏を快適に暮らすヒントを見つけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京町家から見つけた工夫をグループごとに話し合い、まとめる。 ・模型や町家カードを使って工夫を確認する。 ・現在の家の間取りと比較して今の生活に生かす方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートをもとにしながら、グループで京町家から見つけた涼しく住む工夫をまとめる。 ・わかったことを、科学的に理解するために、日光の角度や通風の原理をパワーポイントを使って説明する。 ・指導ガイドにもとづいて、解説を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・録画した動画で見たり聞いたりしたことを、模模型や町家カードで確かめたり、通風や遮光の原理を科学的にとらえることによって、一般化して自分の暮らし方にも応用して考えようとすることができた。 ・現代的な間取りと京町家の間取りを対比させながら、涼しく住む工夫について話合うことができた。
<p>学校 家庭</p> <p>6 時間</p>	<p>○自分の生活の中でできる工夫を具体的に考える。</p> <p>「マイさわやかプラン」を提案しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の家の間取りを書き、どんな工夫ができるかを考える。 ・家庭実践に結び付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に考えた家の間取りを参考にしながら、考えるようにする。 ・京都市発行の「私たちの環境」環境読本を参考に、環境のことも意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の現代的な間取りにおける涼しい住まい方の工夫を生かして、実際の自分の家でできる涼しい住まい方を「マイさわやかプラン」にして表現することができた。 ・家族の協力を得て、家庭での実践化への意欲につながることができた。

実施学年：6年
生徒数：3学級 120人

実施教科：家庭科
実施時間数：「夏をすずしくさわやかに」8時間
「冬を明るくあたたかく」6時間

Ⅱ 「冬を明るくあたたかく」 指導時期：12月～1月

今年は、コロナ感染予防対策のために、実際の見学研修を行うことができなかったが、夏に京町家に学ぶ住まい方の工夫を学習した子どもたちは、録画動画や京町家カードなどを通して、季節が変わると、住まい方はどのように変わるのか問題意識を持つことができた。今年は、実際に見学研修ができない地域も含めて、できるだけ多くの学校の児童に京町家のよさや工夫を通して夏の暮らしから秋・冬の暮らし方の工夫について考えるために、教材の整備をはかり、それを手がかりにした学習環境を整えたいと考えた。まず、指導者が題材の目標を理解し、教材研究を深めるための指導用ガイドの作成を手掛けた。そして、教育委員会と連携し、NPO・民間の協力も得て、京町家VR体験学習システムの開発にいたった。本格実施は次年度からとなるが、今年度はその試行実施として本研究会員の学校数校で授業実践を行った。夏を涼しく住まうことを主に考えた京町家の冬の暮らしは寒さをしのぐにも一苦労である。建具替えや暖を取るための道具の準備、朝から晩までどの部屋でどのように家族は過ごすのか、客人を迎えるおもてなしはどのようにするかなど、指導ガイド・京町家カード・町家模型をもとに夏の気候の反対に、温まった空気を逃がさない工夫や、昼間の日光をどのように取り入れて暖かくするかなど、科学的にも根拠をもって暮らし方の工夫を見つけることができた。また、コロナ感染予防対策でも共通理解された換気の面でも、京町家がすぐれた住まいの機能を持ち、自然の力を利用したシステムを有していることに気付けたことも、生活の営みに係る健康・安全の視点や持続可能な社会の構築の視点で住まい方について考えることができたことは意義深い成果であったと感じている。さらに、住まいの機能や役割のみならず、着るものや食べるもの、住まいの中の道具や食器など、しつらいも含めて、そこに暮らす人の目線で、季節にあった住まい方の工夫に気付くことができたことから、生活の文化継承の面でも学習成果が見られた。夏の「マイさわやかプラン」の続編として「マイほかほかプラン」を考えて、各々の家庭での実践につなげて考えることができた。



学習のねらい

- ・自分の日常生活を振り返り、衣服の着方、住まいや住まい方に関心をもち、主体的によりよくしようとしたり、住まいや住まい方における日本の生活文化を大切にしようとして実践しようとする。
- ・快適な暮らしをもとに、冬の暮らしの特徴や日常生活の中から問題を見つけ、課題を設定し、工夫・改善しようとする。
- ・季節に応じた日常着の快適な着方や季節に合わせて、自然を生かしたりする快適な住まい方について理解できるようにする。

学習活動

第1次 冬の生活をみつめよう

- ・冬の暮らしの特徴と問題を考え、課題を設定する。 1時間

第2次 季節に合わせた住まい方・暮らし方の工夫を見つけよう

- ・京町家の見学から、自然を利用した快適な住まい方の工夫を調べる。 2時間
- ・京町家の住まい方の工夫から、自分の家庭生活に生かせる工夫を考える。 2時間

第3次 冬の生活に生かそう

- ・学習したことを生かして、「マイほかほかプラン」を考える。 1時間

準備品

京町家カード 京町家の模型

指導ガイド「京町家に学ぶ指導ガイド」(試行版)

指導用パワーポイント

京町家 VR 学習体験システム (試行版)

協力：京町家再生研究会・京都市教育委員会

実施場所

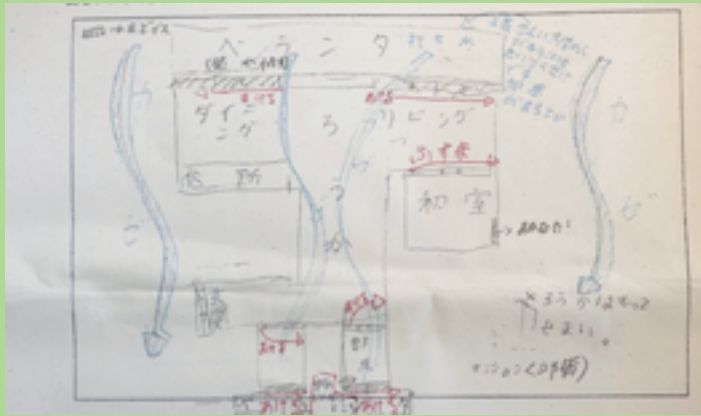
学校

学習の流れ

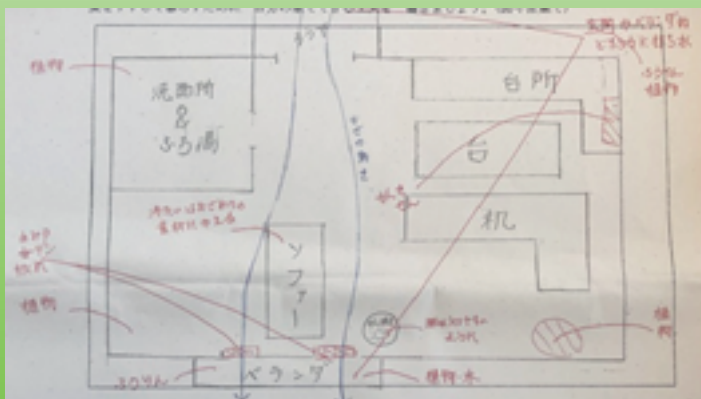
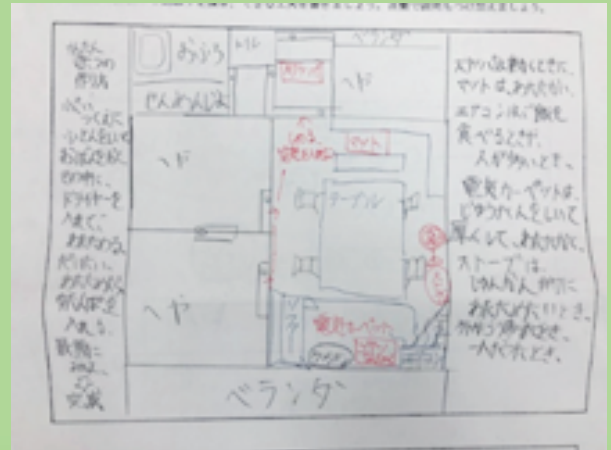
場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>学校</p> <p>1 時間</p>	<p>○季節に合わせた快適な暮らし方を考え、学習の見直しをもつ。</p> <p>季節に合わせた快適な住まい方について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋から冬にかけての住まい方はどのように変わるのか考えてみる。 ・夏の住まい方の工夫と比較して、京町家の見学から見つけた手がかりを思い出す。 ・再び京町家の見学のめあてについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気温と1年間のガス使用量の推移のグラフから、冬のガス消費量の多くを暖房に頼っていることに気付く。 ・夏と同様に平均気温のグラフから地球温暖化現象が進んでいることを再確認する。 ・教科書の挿絵や自分の生活経験から、住まい方に工夫があることに気付かせ、夏と比較して京の町家に工夫の手がかりがあることに気付かせ、見学のめあてをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の電気使用量とともに冬のガス使用量の多さと地球温暖化現象が進んでいることに気づき、自然を生かした暮らし方の工夫が必要であることを再確認した。 ・校区にある京町家への見学を再提案し、主体的に課題解決のために見学のめあてを考えることができた。
<p>京町家</p> <p>2.3 時間</p>	<p>○町家を見学して住まい方の工夫を見つかる。</p> <p>町家の見学を通して冬を暖かく住むための工夫を見つけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏と比較して気付いたことをメモしながら、わからないことは専門家に質問する。 ・住まいの構造や機能だけでなく、暮らし方の工夫についても聞く。自分たちの地域にも同じような町家が残っていることにも目をむけさせる。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・京町家を見学して、夏とどこがどのように変わったかを見つける。 ・専門家の話を聞いて、メモをとりながら生活の工夫を手がかりとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・京町家が自然をうまく利用して暖房にたよらずに暖かく住まうことができていることを知り、関心をもって専門家の話を聞いてメモを取る。 ・日光を取り入れるための障子や、風通しを防ぐための家や建具の工夫や、食器や火鉢や布団など暖をもてなす工夫も知り、興味関心をもつことができた。 ・京町家に関心をもって、自分たちの身近なところにも町家が残っていることに気付くことができた。
<p>学校</p> <p>4.5 時間</p>	<p>○町家見学を思い出しながら、町家で見つけた冬を暖かく住むために工夫をまとめる。</p> <p>冬を快適に過ごす工夫を見つけ、自分の生活に生かす方法を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町家で見つけた工夫をグループごとに話し合い、まとめる。 ・模型を使って工夫を確認する。 ・現在の生活に生かす方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・京町家カードを使って、夏の暮らしの工夫と対比させて、冬の暮らしの工夫を見つける。 ・京町家の模型も見ながら、冬の住まい方の工夫を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・京町家の見学で見たり聞いたりしたことを、もう一度、保温や採光の原理を科学的にとらえることによって、一般化して自分の暮らし方にも応用して考えようとすることができた。 ・と京町家の間取りを対比させながら、涼しく住まう工夫について話合うことができた。
<p>学校 家庭</p> <p>6 時間</p>	<p>○自分の生活の中でできる工夫を具体的に考える。</p> <p>「マイほかほかプラン」を提案しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の家の間取りを書き、どんな工夫ができるかを考える。 ・夏と冬の暮らしを比較して、自分の家庭生活で実践できそうなことを振り返る。 ・京都の町家の現況について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に考えた家の間取りを参考にしながら、考えるようにする。 ・夏の「マイさわやかプラン」も参考にしながら、「マイほかほかプラン」を立てて、一年中を通して、季節に合った快適な住まい方について考える。 	

生徒の作品

「マイさわやかプラン」 7月



「マイほかほかプラン」 2月



先生の声

実施に当たり工夫した点
苦労した点

昨年度、児童の京町家の見学にあたって、受け入れていただいた京町家再生研究会との連携により、全市広域に多くの児童に京町家に学ぶ住育を効果的に指導にすることにあたって、指導ガイドを作成することができた。また、今年度のコロナ対応により、ICTを活用したデジタルコンテンツの開発を手掛けることとなり、教育委員会・民間の理解と協力のもとVR学習体験システムを製作することができた。京都市内全域の小学校での京町家の教材化がはかれた。このデジタルコンテンツと指導ガイドをセットにして整備することで教材の充実がはかれた。

児童・生徒の反応

京町家を教材化し、実体験やバーチャル体験を取り入れることによって、実感を伴った理解につなげることが可能になった。その体験をもとに科学的に、住まいの機能や役割、生活の工夫などを理解することができた。また、かけはなれた京町家の暮らしにとどまるのではなく、現代の自分の住まいに応用が利くことも見いだせたことに、子どもたちは主体的に、自分の生活を改善する方法を具体的に考えて実践に結び付けることができたのではないかとと思う。

教師の変化
(担当、担当外を含めて)

おもな指導にあたった、家庭科専科・学級担任の教諭はこれまで身近な環境に京町家がないことや十分な教材研究時間をかけて打合せをすることがなかなかできにくかったが、指導ガイドや京町家カード・模型などを通して、指導者自身の理解を深めることができた。自分たちも経験や知識がなかった京町家のことを知ることができて、子ども目線で一緒に、関心を示し、質問したり積極的にかかわり、充実した学習に指導者自身の力量も高めることができた。より多くの学校の指導者が自信をもって、地域の教育資源である京町家を素材に住育の指導にあたることができるようになった。

その他

今年度は、コロナ禍においての学校現場での実践研究は計画を変更せざるを得なかった。当初の計画では見学体験を中心に据えた学習計画であったが GIGA スクール構想が急展開したこともあり、できるだけ多くの子どもたちが京町家という資源に触れる機会を保障するためのデジタルコンテンツの開発へと方向転換した。これにともない、指導ガイドの内容を指導者が並行して扱える内容を検討する必要があったため、計画はかなり予定よりもずれこみ、いくつかの試行校の実践をもとに、全市に還元できる内容にすることができた。これは、これまでの継続的に当研究会が開発しながら学習環境の整備をはかり、教材開発してきたことや京町家再生研や京すまいセンターとの協力・協働によるパートナーシップとしての基盤づくりが土台となっているからこそ実現できたことであった。機会があればモデル実践として全国にも発信してみたい。